JATS NEWSLETTER 1.3.5.7.9月発行

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE!

2015-3 No.28

TOPICS

- サマースクール2014 …… 1~2面
- 第1回理事会ニュース …… 2面
- 若手医師の立場から、ワーママの一員として、正会員申請案内 …… 3面
- 第32回日本呼吸器外科学会総会、第68回学術集会情報 …… 4面

特定非営利活動法人日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

呼吸器外科 心臓血管外科 サマースクール2014 開催報告

2014年度も呼吸器外科ならびに心臓血管外科、いずれのサマースクールもキャンセル待ちが出る盛況でした。なお、心臓血管外科サマースクールは本年より日本血管外科学会も加わり3学会による共催となりました。

心臓血管外科サマースクールは8月23、24日、神戸のニチイ学館ポートアイランドセンターにて、参加者115名（医学生59名、研修医56名）で、58名のインストラクターのもとウェットラボを中心とした実習を行いました。翌日はドライラボも導入し、人工心臓の紹介のほか、ステントグラフトや人工心肺の実際の手技を経験しました。

呼吸器外科サマースクールは7月19、20日神戸医療機器開発センター、ニチイ学館神戸ポートアイランドセンターにて開催し、参加者は98名（医学生39名、研修医59名）で、40名のインストラクターが受講生の指導に当たりました。初日はアニマルラボ、ティッシュラボに励み、2日目は胸腔鏡手術のドライラボを行いました。最後の技術コンテストでは大いに盛り上がりました。

両サマースクールとも懇親会では全員が参加し大いに交流を深め盛り上がりました。心臓血管外科医、呼吸器外科医を志す若者が一人でも増えてくれることを切に願います。

【研究・教育委員会委員長　松居喜郎】

呼吸器外科サマースクール in 神戸 2014年7月19・20日

参加者の声

2日間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。楽しみながらも真剣に自分の将来について考えるとてもよい機会になりました。

やはり一番印象に残っているのはアニマルラボです。臨床研修で呼吸器外科を回った後でしたので先生方の手術をたくさん見て、とても簡単そうにされているので自分にもできるのではないかと勝手に思っていました。しかしそれは先生方が練習を積んで万全の準備で臨んでいるからこそだと気づきました。生きている動物で、もし血管を傷つけたら死んでしまうかもしれないと思うと怖くて全く手が出せませんでした。それでも丁寧に教えてくださり、実際に自分の手を動かすことで、血管を剥離する感覚や力加減などやってみて初めてわかることがたくさんありました。

また、懇親会で呼吸器外科の先生方や全国から集まった志の高い研修医、学生とざっくばらんに話せたのもよかったです。本当に研修医かなと思うくらい手技がうまく、知識が豊富な研修医がいたりと、とてもいい刺激を受けました。

私は今研修医1年目で今回初めて参加しましたが、学生のうちから参加していればよかったなと思いました。呼吸器外科に進もうと考えている人はもちろんですが、進路に迷っている人こそ参加するとよいのではないかなと思いました。呼吸器外科の扱う領域について知ることができ、また懇親会では先生方の雰囲気や人柄についても触れることができるので、自分の将来像が明確になるのではないかと思います。女性の呼吸器外科の先生の経歴や子育てとの両立などについても聞くことができ、普段なかなか聞く機会がないのでとても参考になりました。

また1年後成長して参加できたらと考えていますのでよろしくお願いします。改めて2日間ありがとうございました。（研修医1年目）

初日はwet labでブタの開胸を行った。我々のチームは医学部5年6年の4人であったので、メスや電気メス、鉗子やハサミの持ち方から始めた。メスで皮膚を切る感覚や電気メスで皮下の脂肪を切る感覚などは、wet labでしか練習できない貴重な経験となったことと思う。開胸実習では、肋骨を剥離して切断することを行ったが、骨膜を剥離する方法や肋間動静脈の結紮切離など血管処理の第1歩としては十分な経験と思われた。肋骨を切断するのは、肋骨尖刀で行うが骨を切るということは、実際の手術でも経験できる回数が減ってきているので、これもまた貴重な経験をすることができたのではないかと思う。我々のグループはいくつかの開胸グループの内で唯一開胸を完遂することができ、チームワークがよかったと思われる。

午後は摘出心肺を用いた肺葉切除を行った。実際の肺の動静脈では血液が流れているが、摘出心肺では血流がなく、血管が虚脱しており、同定や剥離は実際の血管よりもやや難しいように思えたが、我々の班では、血管床を剥離して血管に達し、末梢側まで血管を剥離した後、二重結紮切離をすることができた。左上葉の動脈の同定と切離、左上葉肺静脈の同定と切離まで完遂し、気管支を切って葉切除を行うことができた。これは、やや大変で剥離と切離を根気よくやった学生の成果と思われた。休憩時間には、別室で飲み物を飲みながら、呼吸器外科の話、なぜ呼吸器外科になったか、呼吸器外科のどこが面白いかという呼吸器外科のサマースクールでのことにとどまらず、これからの医者としての人生をどういう風に歩んで行くかという、根本的な悩みなどについてディスカッションすることができ、これもカリキュラムにはないが学生の相談にのることができてよかったと思われた。

二日目は「呼吸器外科の1日」という課題での発表があり、自分自身のこれまでの大学院での研究、呼吸器外科医としての専門医、海外への留学の経験を話すことができた。サマースクールの医学部生や研修医のこれからの医師としての人生の参考になれば、幸いである。（ベーシックコースインストラクター）

心臓血管外科サマースクール in 神戸 2014年8月23・24日

参加者の声

今回はじめて参加させて頂きました。

ウェットラボから将来のvisionについて講義まで2日間で充分すぎるくらいの環境でした。まず実感したのは、熱いメンバーと一流の環境で学ぶことが上達する1つの手段ではないかということです。次に先生方のやりがいと自分の技術で目の前の患者を助けたいという気持ちにひかれました。本当に参加してよかったです。外科医として迷いがありましたが、自分が信じる道をぶれずつき通したいと思います。

講師陣が豊富で、質問しやすく、とても贅沢な実技指導を受けられ、こんな貴重な経験をさせていただけたことに感謝でした。

なかなか触らせてもらえない機械にも触らせて頂けて、将来、自分が、どういう治療をしたいのかの具体的なイメージがわきました。

懇親会も、アンケート発表や、余興などがあって楽しく、心外の先生が、日本全体で仲良くされている姿を見て、私も仲間入りしたくなりました。

手技をやらせていただき、心臓血管外科の歴史などたくさん学ぶことがあり、有意義な時間が過ごせました。一番良かったのは、心外を志す女性は思ったよりいるということを知れたことです。

今回周囲が殆ど心外志望、少なくとも外科系志望である中で、自分はこれからの指針が曖昧で迷っている最中の参加であり、大きな不安と期待がありました。

このサマースクールで周囲の情熱やアグレッシブさに刺激を受け、又、日本を代表する心外のオールスターの先生方にお世話になり、大変有意義な2日間となりました。まだ、将来のことは決めきれませんが、選択枝がまた1つ増えました。来年も是非御世話になれたらと思います。有難うございました。

もちろん、wet labで実際に手を動かすことで、今後外科学を志す大きな原体験になったことは最大の良かった点ですが、各地からお越しの先生方と直にお話しして何らかのmessageを受け取れたことがそれに劣らず大きな財産

となりました。学部3年での参加ということで、知識の不足を心配しての参加でしたが、そういったことはあまり問題ではなく、自分の学年、年齢でしか受け取れないメッセージがあった様に思います。より広く宣伝すると良いように思います。

（学生3年生）

ウェットラボで、学校では絶対にできないことを体験でき非常に貴重な経験となりました。講師の先生が多いので、細かいアドバイスや素朴な疑問に答えて頂き、循環器への理解が深まりました。プログラム自体で学んだことも貴重でしたが、現在、日本の医療のトップクラスの先生に直接たくさん会えたことも良かったです。先生方が何を考え、どのような経験をされたかを知り、これからの迷った時に非常にためになる意見でした。

先生方や事務の方にこの様な貴重な場を与えてくださりありがとうございました。

（学生4年生）

Wet lab、dry labともに充分満足の出来るものでした。心外を研修した際には、解決出来なかった様々な疑問の一部が解決出来ました。普段、お話をすることの出来ない多方面の先生方や各施設の教授、部長先生からお話を伺えたことは研修医1年目の今後の進路を考えるタイミングとして大変有意義なものでした。また、同じ志や不安、疑問を抱えた多くの研修医と出会えたことはこのサマースクールに参加する一つのテーマとしていた私にとっては大きな収穫となりました。もっともっと多くの施設の先生と話をする機会を取れればとも思いましたが、1泊2日の日程では十分に考慮されているとも感じました。

このような機会を設けてくださりありがとうございました。

（研修医1年目）

2年連続で参加させて頂きました。wet labの楽しさはもちろん、今年から始まったdry labも見たことのない経験やデバイスに直接触れることができ楽しかったです。少し心臓血管外科に入ることを悩んでいましたが、楽しさを再確認することができました。

特に最後のtop runnerのお2人の先生の経験を聞けたことが、将来の自分のvisionを考え直す良いきっかけになりました。ありがとうございました。

（研修医2年目）

本年も開催します！

呼吸器外科サマースクール
▶ 2015年7月11日（土）・12日（日）
▶ 神戸医療機器開発センター（MEDDEC）
ニチイ学館ポートアイランドセンター

心臓血管外科サマースクール
▶ 2015年8月22日（土）・23日（日）
▶ テルモメディカルプラネックス

（2015年1月16日現在 予定）

第1回 理事会ニュース

日本胸部外科学会第1回理事会
2014年11月26日（木） 13：00～16：10

1. 各種委員会委員名簿決定の件

2015年委員会委員名簿が了承された。

2. 各種委員会報告及び協議事項、年度計画

（1）会誌編集委員会

報告事項

1)2015年会誌編集委員

一部委員交代（新規委員として4名を追加）、統計査読者は継続

2)現在の投稿・掲載状況

2014年11月10日時点で新規投稿総数270編。依頼論文の投稿は29編で、現時点でほぼ昨年の投稿数を上回る。Accept総数は114編で、Accept率はOriginal Article 52％、Case Reportは30％。Acceptまでの期間は、平均審査所要期間は約80日。掲載までの期間はOriginal ArticleとCase Reportについては、Acceptから約18日でOnline Firsts出版されており、Acceptから冊子に掲載される平均期間は259日。掲載数はOriginal Article 43編、Case Report 31編、Invited Review Article 33編である。

3)学術集会の座長推薦論文

第67回学術集会の座長180名に、推薦論文の依頼を行った。

4)IF（Impact Factor）獲得に向けて

2016年に申請するためには2015年が勝負の年であり、2015年に発行されるIF取得雑誌への2013年・2014年のGTCS掲載論文の引用が重要である。ついては2013年・2014年に掲載されたGTCSの引用論文リスト：Classification を入れたGTCS Article List（Review Article、Original Article）を作成し、学会ホームページへ掲載する。

5)学術集会・地方会でのIF獲得に向けての広報

学術集会・地方会でのGTCS広報活動（Reviewリストや仮IF状況の資料等を配布）、「GTCSみんなでとろうIF！」のポスター掲示を行っていく。

6)学術調査（Annual Report）のOpen Access

引用数が多いAnnual Reportを本年からOpen Accessにすることを実施した。

7)本会ホームページのTOPページの変更

GTCSの表紙を本会ホームページのTOPページに掲載し、IF取得を推進していく。

（2）総合将来計画委員会

年度計画として、3分野の統合学会としての今後のあり方、新専門医制度における本学会の役割、GTCS Impact Factor獲得のための活動支援が報告された。

（3）学術委員会

本会学術調査におけるNCDデータ利用に関してのベンダー選考について、3社の見積もり金額とそれぞれの会社の特色が報告され、検討の結果、ヒアリングと見積もり額からアーキテクタにすることを決定した。

（4）政策検討委員会

委員交代の件、年度計画として検討事項の抽出を行い、その後学術集会時に将来的な問題点をプレスリリースすることが提案された。

（5）学術集会委員会

1)学術集会ガイドライン作成

第1段階としては会長采配部分を残しながら完成しており、適宜、検討し更新をしていく予定である。

2)委員会委員名簿の件

関連学会（食道学会、呼吸器外科学会、心臓血管外科学会、血管外科学会）の会長・副会長を含めた委員が承認された。

3)第67回学術集会アンケート結果

学術集会主催者アンケート結果は、公開市民講座（12月13日）をもってすべてが終了するので、それ以降に最終報告がなされる。会場運営等に関する11項目の委員会委員アンケート結果は、5点満点で4・1点であった。参加者3、368人によるWebによるアンケート結果は回答者533名、回答率16％（昨年並み）であったことが報告された。

4)第67回学術集会市民公開講座

「進化する胸部外科治療 小さな傷でここまで治る、心臓・肺・食道」を主題として12月13日に開催する。この市民講座で第67回学術集会のすべてが終了するので、それ以降に会計処理、主催者側のアンケートの最終報告を行う。

5)学術集会運営会社の件

2015年度第68回学術集会まではコングレ、2016年度第69回・2017年度第70回は日本コンベンションサービスで決定している。それ以降は第68回学術集会終了後、検討する予定である。

（6）第68回定期学術集会

1)第68回定期学術集会

幹事の紹介、会期は2015年10月17日（土）～10月20日（火）、Postgraduate CourseはBasic（17日）とAdvanced（20日）の2つに分けて開催予定、会場は神戸ポートピアホテルと神戸国際展示場、テーマは「あれから20年」、演題登録期間は2015年3月2日（月）～4月27日（月）に予定、現時点での招請演者は11名を予定していることが報告された。

2）AATS Aortic Symposium workshop 2015 Kobe

寄付金100万円の依頼があり検討した結果、了承された。

（7）財務委員会

学術調査（NCDデータからのコンバート）の費用、AATSへの寄付金負担、会員管理システムの第3次構築の費用は、検討の結果、了承された。積立金は具体的用途内容を検討すること、特定非営利活動促進法に従って収支計算書を活動計算書に変更する件は持ち回り審議を行う予定である。

（8）倫理・安全管理委員会

第68回定期学術集会における医療安全講習会のテーマを「高齢者における外科治療の倫理」と企画している。

（9）専門医制度委員会

1)外科専門医研修プログラム整備基準3版から4版への主な変更点

日本専門医機構では、1階部分（基本領域）を整備している段階でありサブスペ部分はまだ先としているが、多くの施設は外科専門医制度との連動型であるので、一緒に動くことで了承されている。その外科専門医研修プログラム整備基準第4版が報告された。

2)呼吸器外科専門研修プログラム整備基準

初期臨床研修（2年間）に外科専門医研修（3年間）が終了した後に、サブスペとして呼吸器外科研修（3年間）を行うことを原則とするが、外科専門医研修中に呼吸器外科認定修練施設で一定期間以上の呼吸器外科の臨床研修を行った場合、この研修を呼吸器外科専門医研修の実績に組み込むことができる外科専門医研修と呼吸器外科専門医研修が連動するプログラムを基本とする。

（10）研究・教育委員会

1)心臓血管外科サマースクール

心臓血管外科サマースクール2014の決算は収支差額で赤字となり、日本心臓血管外科学会の理事会ではこの赤字額について日本血管外科学会を含めた構成3学会の助成金比率で負担することが決定され、本会も負担する案の申し入れがあった。本理事会で検討し、決算内容ならびに負担金は支払うことで承認された。

2)2015年年度計画

呼吸器外科及び心臓血管外科のサマースクール、PGCでは心臓を2コースに分け開催した検証を来年2月の3学会合同PGC委員会で検討予定、2016年度までの講師・座長など具体案の作成、新専門医制度における出席単位を管理できる体制の構築が日本外科学会で検討されていることなどが報告された。

（11）診療問題委員会

年次計画は、平成28年度診療報酬改定に向けて、関連学会と連携し意見集約を行い、厚生労働省に意見提示する。特に心臓分野ではCABG術中バイパス流量測定の加算である。また、人工膵臓治療関連学会協議会からの要望も加味する。

なお、緊急加算の施設基準に関するアンケート最終結果（1502施設中936施設からの回答）が報告された。まとめとして、胸部外科3領域では、全体の4分の3近い施設での加算の要求が満たされていないことが判明し、医師数が多く重症の少ない診療科にとっては有利であるが、地域医療を支えている地方の第一線病院ではマンパワーの制約から導入が難しく、その影響が胸部外科領域で顕著に表れた結果である。また、約7割の施設が施設基準の緩和を要望しているが、中途半端な緩和は、病院の増収をもたらすが、一方で現場の労働環境悪化を招きかねないことが報告された。

（12）総務・渉外委員会

年度計画は2018年第71回と2019年第72回の学術運営会社の選考を予定していることが報告された。

（13）広報（Homepage・Internet）委員会

ホームページのTOPページの変更、Newsletter No.27掲載内容及び年度計画、委員名簿の変更などが報告された。

（14）処遇改善委員会

日本外科学会処遇改善委員会との連携を深め、作業を行う。

（15）チーム医療推進委員会

年度計画として、より良い医療チーム作りを進めるための活動　1)胸部外科領域における医療チーム作りの現状把握とその情報提供　2)チーム医療をテーマとしての学術集会でのセッションを計画　3)先進的なチーム医療を実践している施設をNewsletterなどで紹介　4)胸部外科関連他領域（看護学会・麻酔科学会）団体との相談・交渉の推進、施設集約化とチーム医療の考察、会員施設でチーム医療を推進できる基盤作りの検討を行う予定である。

（16）国際委員会

年度目標としてCTS Net及び海外の学会（AATS、EACTS、STS、ESTS）との交流を図ること、和文ホームページリニューアル後、英文ページのリニューアルを開始すること、一部委員交代の件が報告された。

（17）COI委員会

年度計画として、日本医学会のCOI委員会新ガイドラインに沿って、本会COI規約を再検討すること、また、英文のCOI規約を会誌編集委員会とも協力し再検討すること、「臨床研究の利益相反に関する指針」に基づく役員等の自己申告書は委員会で監査を実施することが報告された。

（18）選挙管理委員会

ここ数年、台風の影響により、評議員会の開催が危ぶまれる事態が発生しており、役員選挙の投票の問題もあるため、その対策を検討する。

3. 今後の理事会スケジュール

第2回は2015年3月12日（木）、第3回は5月29日（金）、第4回は7月27日（月）、第5回は9月15日（火）に開催する。

4. その他

（1）人工膵臓治療関連学会協議会

11学会からの委員で構成する人工膵臓関連学会協議会が組織された。委員の交通費は各学会の負担となる。また、経費負担が生じた場合は参加学会が分担することとした。

（2）肺・心肺移植関連学会協議会

肺・心肺移植関連学会協議会の経理負担への協力に関するお願いの文書が検討され、負担することとした。

（3）NCD社員総会

日本脳神経外科学会が新たに社員として入社、役員選任、事業内容が報告された。

また、新専門医制度における外科系の研修プログラムを構築するために、NCDの施設会員であることが必要となる見込みが追加された施設会費納入のお願い文書が提出された。JACVSDは組織としてはNCDに入ったが、NCDには人的及び資金の面からサイトビジットを行う力はないので、データの信用度を高めるためには各学会が骨を折るしかなく、JACVSDへの補助金支出は今後も続く予定である。

若手医師の立場から

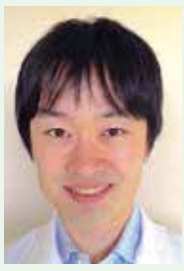
専門医を取得されている、もしくは取得を目指す若手の先生方に、日々感じていること、将来の目標などを語っていただきました。

一人前の心臓血管外科医を目指して

私は現在慶應義塾大学心臓血管外科に卒後4年目のレジデントとして勤務しております。京都府立医科大学卒業後、慶應義塾大学病院初期臨床研修医として2年間勤務し、卒後3年目から慶應義塾大学外科学教室に入室、同年稲城市立病院に出向し主に一般・消化器外科の研修を積み、本年度より大学に帰室し心臓血管外科に入局し現在に至ります。

私が心臓血管外科の道を目指そうと決意したのは、初期研修2年目で心臓血管外科をローテーションさせて頂いた時でした。学生の頃は、心臓血管外科は憧れの外科ではありましたが、到底自分には踏み込めない領域であろうと考えていました。しかし研修医として心臓血管外科の手術に入り、目の前で自在に心臓の動きを操り、スピーディーかつ正確に美しく手術を進めていく先生方の手術に感動し、憧れを捨てきれず勇気を出し心臓血管外科の門を叩くこととなりました。慶應義塾大学心臓血管外科のプログラムは、まず入局1年目（卒後3年目）は一般・消化器外科で外科の基礎を学びます。翌年より3―4年間大学病院または関連病院でレジデント→チーフレジデントと研修が進みます。大学では先天性心疾患、後天性心疾患、大動脈疾患の手術をバランスよく学ぶことが出来ます。Open surgeryは勿論、MICS、ステントグラフト、TAVIなどの低侵襲手術のいずれも偏りないのが特徴です。スタッフの先生方は指導熱心な先生が多く、症例によりレジデントから執刀させて頂ける機会もあり、すでに開胸・閉胸、人工心肺確立、ASDや末梢血管の手術を執刀させて頂いています。疲弊しない程度に多くの手術に入り、充実した日々を送っており慶應の心臓血管外科を選んで良かったと痛感しています。

私の次の5年の目標はまずopen surgeryの基礎を身に付け、将来はどんな緊急事態にも冷静に対処できる一人前の心臓血管外科医を目指して行きたいと思っております。そのためにもまずは術前、術後管理から1例1例を大切にし、日々精進して行きたいと考えています。日頃、御指導頂いているスタッフの先生方、先輩、同僚にこの場を借りて御礼申し上げます。



稲葉佑
（慶應義塾大学医学部外科（心臓血管））
卒業大学：京都府立医科大学

2011年3月　京都府立医科大学卒業
2011年4月　慶應義塾大学病院初期臨床研修医
2013年4月　慶應義塾大学医学部外科学教室入室、同年稲城市立病院外科
2014年4月　慶應義塾大学医学部外科学（心臓血管）

趣味：スキー、ヨット
好きな言葉：ピンチをチャンスに変える

ワーママの一員として

私は安佐市民病院心臓血管外科に卒業後13年目の修練医として勤務しています。

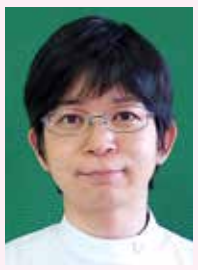
広島大学卒業後、1年間は内科研修でしたが、ローテーションした広島大学第一外科（末田泰二郎教授）が面白そうで入局しなおしました。当初は小児外科志望でしたが、色々勉強した方がいいからと県立広島病院の胸部外科にて研修し、大学病院では不整脈外科の研究に参加させていただき、以降、心臓血管外科（成人）をローテートし続けております。

個人的なことではありますが、卒後11年目で妊娠・出産を経験し、運良く同じ職場に復職させていただいております。ワーママの一員となりましたが、ワークライフバランスなどとんでもないです。周囲のスタッフに迷惑をかけ続ける毎日です。妊娠中は悪阻も浮腫もひどく、外来診療と学会参加をこなすのが精一杯でした。出産後は、乳児を抱えておりますので徹夜の急患などは呼ばれない体制を作っていただきました。腹部以下の末梢血管が主ですが定期手術の執刀も担当させていただいております。夜間の急患も、自分の当直中の解離症例などには主治医にあてていただき、術後の診療なども含め、診療にあたるチャンスを頂いております。出産後は被爆の心配もなくなりましたので、ステントグラフトの症例にも再び担当医師としてつくことができるようになりました。

産後、回復してくると、子供が眠っているすきをついてできる仕事は、体調が良好であればこなせるようになりました。JACVSDのデータベースをもとに胸部大血管手術の周術期心房細動に関した論文がようやく形になりました。指導いただきました東京大学の宮田裕章教授をはじめ、発案してくださった前部長の内田直里先生（現土谷総合病院心臓血管外科主任部長）、学位論文として認めて下さった末田教授など皆様に非常に感謝しております。

U-40のアンケートが回ってきて、この1年を振り返るきっかけとなりましたが、ごくわずかな執刀症例などをカウントしつつ、同世代の医師との差は開くばかりだなあとも、実感いたしました。1例1例を本当に大切に、今まで以上にしっかり経験し、passionをもって臨床を続け、次に活かせなければ、明日はないなとも常に考えます。

小さなチャンスもすべて周囲の皆様からもたらされて現在があるように思います。これからも患者さんと向き合いながら周囲のスタッフの支えの中、日々研鑽を積んでいこうと思います。



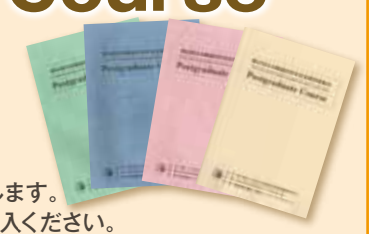
荒川三和
（広島市立安佐市民病院）
卒業大学：広島大学2002年卒

2003年　県立広島病院　胸部外科
2005年　広島大学病院
2006年　広島市立安佐市民病院　心臓血管外科

趣味：読書
好きな言葉：紅旗征戎吾ガ事ニ非ズ（理想ですが、ほど遠いのが現状です）

お知らせ

Postgraduate Course テキスト販売



第64～67回の定期学術集会で行われた
Postgraduate Courseのテキストを販売いたします。
お越しになれなかった先生方、ぜひこの機会にご購入ください。

ご注意！ 在庫僅少の第65回や複数冊を購入ご希望の方は、在庫の確認や発送料の再計算をいたしますので、お振込みの前にまずはお問合せください
発送は『代金のお振込み』と『事務局へのメール』が共に確認できてから

ご購入手続き　1冊…¥3,360（本体価格…¥3,000 ＋ レターパック…¥360）

Step1 代金のお振込み
振込額：1冊¥3,360（本体価格¥3,000＋発送用レターパック¥360）
口　座：みずほ銀行　飯田橋支店
　　普通預金　2288186
名　義：特定非営利活動法人日本胸部外科学会
　　トクヒ）ニホンキョウブゲカガッカイ
　　※振込人名を必ず入力

Step2 事務局へメール
宛　先：jats-manager@umin.net（PGCテキスト販売窓口）
件　名：PGCテキスト購入希望・入金完了
本　文：会員番号　T
　　氏　名
　　購入希望回　※必ず明記
　　発送先　※学会登録の住所以外に送付する場合のみ記載

正会員申請について

2015年4月30日（木）	正会員申請締め切り日
2015年6月15日（月）まで	委員会による審査かつ結果を理事会に報告
2015年6月20日（土）まで	不合格者への結果連絡
2015年7月1日（水）まで	不合格者からの異議申し立て
2015年7月15日（水）まで	異議申し立て者に結果を通知
2015年8月1日（土）まで	合格者に正会員委嘱通知

（申請条件等は学会ホームページをご覧下さい。）

お知らせ　日本胸部外科学会webサイト『会員ページ』リニューアルオープン

昨春、リニューアルオープンした『**会員ページ**』。
住所変更や Online Journal 閲覧（GTCS）が簡単に行えるようになりました。
今後も**会員向けの情報は徐々に当ページへ集約**し、皆様の**利便性向上**に努めてまいります。
トップページ（http://www.jpats.org/）の 会員ページ ※ログインが必要です からログインしてください。

第32回日本呼吸器外科学会総会
「それぞれに龍をめざして」

香川大学呼吸器外科　横見瀬 裕保

第32回日本呼吸器外科学会総会を平成27年5月14日、15日に四国高松で開催させていただくことになり、光栄と思うとともに、心から感謝しております。自分自身が呼吸器外科医になって32年であり、31年の呼吸器外科学会の歴史が私を育てくれたと思っております。また我が国の呼吸器外科学の発展は本学会の発展そのものであったと考えます。私自身、留学中以外はすべての会に参加しており、その時の自分のメインの仕事を報告してきました。

今回のテーマは〝龍になれ雲自ら従う―それぞれに龍をめざして―〟とさせていただきました。この言葉は武者小路実篤氏が陶芸家の清水（キヨミズ）六兵衛氏を励ますために贈った言葉で、私の母教室、京都大学胸部外科の創始者である長石忠三京都大学名誉教授が教室員を鼓舞するためによく使われた言葉です。既成概念、時流にとらわれることなく、それぞれの考えで自由奔放に自分の学問を行い、その分野で一流になることが重要と考えます。毎回議論されているテーマにとらわれない、場合によっては今のエビデンスに関わるような問題を取り上げたいと考えています。熱い討論ができる学会を企画します。

シンポジウムとして、「積極的縮小手術後の再発：本気で話そう、再発とその具体的治療戦略」、「pure VATS lobectomy中の肺動脈出血の原因と対処方法」、「N2非小細胞肺癌に対する導入化学放射線療法、外科療法」を、パネルディスカッションとして「高齢者肺癌の外科治療戦略」、「大腸がん肺転移：10年前とBevacizumab時代の今」、「Ⅳ期肺癌は本当に手術適応外なのか？」、を企画しました。臨床で疑問と思っていたテーマ、今知りたいテーマを選びました。

また新専門医制度に対応して従来、呼吸器外科セミナー、安全管理セミナーだけに発行していた受講証をCOIに関する教育セミナー、感染症、病理に関する教育講演にも発行する事にしました。是非ご参加下さい。

初夏5月、高松の海、空は青一色です。多くの皆様が来高されることを願っております。

横見瀬裕保
（香川大学呼吸器外科）
卒業大学：京都大学1981年卒

簡単な経歴：倉敷、姫路、京都、トロント、和歌山を巡り、修行を積んできました。

趣味：オープンエアでハードロックドライブ
好きな言葉：アート、ハート、サイエンス

みんなでとろう インパクトファクター GTCSの取り組み

IF取得雑誌への投稿の際は
GTCSの論文を積極的に引用してください！

2016年度に申請しますので2015年が勝負となります！

「2013年」と「2014年」のGTCSから引用してください！

General Thoracic and Cardiovascular Surgery（GTCS）は
日本胸部外科学会，日本呼吸器外科学会のOfficial journal，日本心臓血管外科学会のAffiliated journalです。

http://www.jpats.org/　日本胸部外科学会Webサイトに、お勧め論文一覧掲載中！

第68回 日本胸部外科学会定期学術集会

The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery

会　期：2015年10月17日（土）～20日（火）
会　場：神戸ポートピアホテル
　　神戸国際展示場1号館
会　長：大北 裕
　　（神戸大学大学院医学研究科心臓血管外科学 教授）
テーマ：あれから20年...
URL：http://www.congre.co.jp/jats68/
演題登録期間：
　　2015年3月2日（月）～4月27日（月）
　　※公募プログラムなど詳細は学術集会HPをご覧ください。

事務局

第68回日本胸部外科学会定期学術集会　事務局
神戸大学大学院医学研究科心臓血管外科学分野
〒650-0017　神戸市中央区楠町7-5-2
TEL：078-382-5942　FAX：078-382-5959

第68回日本胸部外科学会定期学術集会　運営事務局
〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-13
株式会社コングレ内
TEL：06-6229-2555　FAX：06-6229-2556
E-mail：jats68@congre.co.jp/

編集後記

2011年、本学会と日本心臓血管外科学会、日本呼吸器外科学会が協力して心臓血管外科、呼吸器外科の魅力を若い世代に伝えたい、という熱い思いから始まったサマースクールは4回目となりました。毎回、募集枠は早々に埋まりキャンセル待ちになる人気のプログラムです。今回も参加した研修医や学生は2日間、衣食をともにして、手術の指導のみならず人生の大事な選択の時にあって心に残る話を語る熱き思いの心臓血管外科医、呼吸器外科医のプロフェッショナリズムを感じたようです。主管された方々と遠来より集まられた講師の皆様のご尽力の賜物です。術衣にて一堂に会した写真はまさにスクールであり、道場の力強さを表しています。この中から、どれだけの若き龍が天に駆けるか、楽しみです。若き医師の立場からのお二人の文章からは、自覚した、そして凛とした、龍の可能性を感じました。

今年は、いよいよインパクトファクター申請へ向けて勝負の年です。わが国の胸部3領域の手術が概観できるannual reportは引用するにはもってこいの論文ですが、これ以外にも2013、2014年のGTCS掲載論文で引用されそうな文献リストがホームページに掲載されています。投稿される前に今一度、「みんなで取ろうインパクトファクター」を思い起こしましょう。

では、高松で、そして神戸で、雲を突き抜ける龍の会長のもとで開催される学術集会の場で会いましょう。

広報委員会委員長　千原　幸司

28 JATS NEWSLETTER No.28
JUST NOW JATS
2015年3月10日発行

発行◉特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◉03-3812-4253　FAX◉03-3816-4560
URL◉http://www.jpats.org/

編集◉日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◉jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◉株式会社 杏林舎

本誌掲載記事、写真等の無断複写・複製・転載を固く禁じます。©The Japanese Association for Thoracic Surgery